

## 第二室第一詩 妖女の幻影

妖女の幻影が、私を取り巻いた。

まどろむ夢の中の、きまぐれな影のように。

それは、意図をもった強力な光なのだろうか？

私のもてる、すべての力をもって眼を細めてみるならば、

それは見えるのかもしれない。

それは常に私の内側にあるのかもしれない

ホスト  
主人から離れることができないブリモドキのように。

その幻影は、私の本質を恐れることなく飲み干した。

その苦い記憶が、私を物思いに耽けさせる。

完璧な、あなたのテーブルの上にその想いを吐き出してみれば

あなたの銀河と、この砂粒を比較するようなものだ。

あなたの瞳の奥底には、その悲しみの渦が沈んでいる。

私の冷淡な心マインドが、あなたを見ることのできたならば、

邪魔をするものは何もありはしない。

分かれ道はないのだ。

そして私はあなたと巡り合う。

私は錠前破り。

トンネル鉞夫だ。

邪悪な監視者の壁を破る者。

アウトロー  
無法者以外の手から逃れる秘密を探求する者だ。

愚か者の無謀な決意は衰えることはなく

翼も無しに飛ぼうとする研究所の外側に私は佇みたす続ける。

あなたは、永遠の観察者

形と認識のヴェールの背後に潜んでいる者

星々の井戸から時間の智慧を引き出す者。

あなたは呪文を投げかけ、私のすべてを引き寄せる。

私はあなたの世界の破片に過ぎないのだろうか？

時間によって隠された記憶なのだろうか？

ひとつの心マインドによって動かされている、

あなたの手の一本の指なのだろうか？

その心マインドは皮膚には不慣れだ。

あなたが自身に触れれば、あなたは私を感じる。

愛に満ちた狂気のヴィジョン。

歓びを告げる秘密のささやきのように手招きする輝きは、

無限の声によって風に乗って広がってゆく。

すべてのものをつないでいる音。

私はその声の一部だ。

その音の一部なのだ。

歓びを告げる秘密のささやきの一部なのだ。

この制限は、明晰な肉体の中で終えなくてはなりません。

希望の光を加速させながら昇ってゆく火花の夢をもって。

受け身の烙印から逃れなさい。

それは不平の兆しです。

あなたが染まる前に、操作から逃れなさい。

すべての数式を破棄して、新たな方程式を描くのです。

砂の言葉で。

他の事は気にかげずに、

聖なるシンボルたちの誘惑にも耳を傾けることもなく

真実の窓の前に立って

異国の言語を見極めるのです。

この言葉が、古びてぼろぼろになった鍵束だった。

その鍵束が、鍵のかかかっていない扉たちの前へと私を導いた。

その扉はただ息を吹きかけただけで崩れ落ちそうだ。

そして、その扉の背後には

聖なる見世物小屋のための、パズルの破片の残りが眠っている

決して終わることのないパズルの。

空のすべての星々が

あなたの神聖な光の目的を思い出している。

その光は、折り重ねられた層レイヤーに焼き焦がしの穴をあけ

すべての嘲あざけりを剥がす。

すべての力を持って命ずる

私の問いかけに答えよ、と。

マップメーカーマップメーカーの回転する粒子の背後に潜んでいる光輝く幻影ヴィジョンを見せたまえ。

私を中に入れてたまえ。

洞窟の一番深い場所に届く光のシャフトのように。  
古代の炎がその洞窟の深部でいまだに燃えている。

誰がその炎の番をするのか？

誰の瞳がそれを見ているのか？

待つのだ。

花が咲く時まで。

私の手に負えない荒波の中に巧みに身を沈めて。

ジャガーのように身を隠して。

私たちが造ったパズルを置き去りにし、

時間を超えろという円熟の技を夢見るために。

妖女の幻影よ。

あなたは、人間の光を求める私の渴望を盗んだ。

虚ろなままにしておくものがあるならば

それは私にして欲しい。

檻に何かが残っているならば

それを自由にして欲しい。

夢みる何かがあるならば

私たちの再会ユニオンの夢を見させて欲しい。